【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成21年9月10日(2009.9.10)

【公表番号】特表2009-502797(P2009-502797A)
【公表日】平成21年1月29日(2009.1.29)
【年通号数】公開・登録公報2009-004
【出願番号】特願2008-522911(P2008-522911)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　14/21　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/74　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　14/21
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　35/74　Ｄ
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　27/02
Ａ６１Ｐ　17/06
Ａ６１Ｐ　19/02
Ａ６１Ｐ　29/00　１０１
Ｃ１２Ｎ　15/00　ＺＮＡＡ

【手続補正書】
【提出日】平成21年7月21日(2009.7.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
キュプレドキシンのバリアント、誘導体、または構造上の均等物である単離されたペプチドであって、哺乳類細胞において血管形成を阻害できる単離されたペプチド。
【請求項２】
請求項1に記載の単離されたペプチドであって、前記キュプレドキシンが、アズリン，シュードアズリン，プラストシアニン，ラスティシアニン，Lazおよびアウラシアニンからなる群から選択される単離されたペプチド。
【請求項３】
請求項2に記載の単離されたペプチドであって、前記キュプレドキシンがアズリンである単離されたペプチド。
【請求項４】
前記キュプレドキシンは緑膿菌（Pseudomonas aeruginosa），Alcaligenes faecalis, Achromobacter xylosoxidan, Bordetella bronchiseptica, Methylomonas sp., Neisseria

meningitidis, Neisseria gonorrhea, Pseudomonas fluorescens, Pseudomonas chlororaphis, Xylella fastidiosaおよびVibrio parahaemolyticusからなる群から選択される生物体に由来する、請求項1に記載の単離されたペプチド。
【請求項５】
請求項4に記載の単離されたペプチドであって、緑膿菌に由来する単離されたペプチド。
【請求項６】
請求項1に記載の単離されたペプチドであって、配列番号1、3～19からなる群から選択されるペプチドの部分である単離されたペプチド。
【請求項７】
配列番号1、3～19からなる群から選択される配列が少なくとも80%のアミノ酸配列同一性を有する、請求項1に記載の単離されたペプチド。
【請求項８】
キュプレドキシンの短縮型である、請求項1に記載の単離されたペプチド。
【請求項９】
請求項8に記載の単離されたペプチドであって、前記ペプチドは、約 10 残基以上で約 100 残基以下である単離されたペプチド。
【請求項１０】
緑膿菌のアズリン残基50～77，緑膿菌のアズリン残基50～67，緑膿菌のアズリン残基36～88，および配列番号20～24からなる群から選択される配列を含む、請求項8に記載の単離されたペプチド。
【請求項１１】
緑膿菌のアズリン残基50～77，緑膿菌のアズリン残基50～67，緑膿菌のアズリン残基36～88，および配列番号20～24からなる群から選択される配列からなる、請求項10に記載の単離されたペプチド。
【請求項１２】
キュプレドキシンの均等物の残基を残基50～77，残基50～67および残基36～88からなる群から選択される緑膿菌アズリンの領域として含む、請求項1に記載の単離されたペプチド。
【請求項１３】
少なくとも１つのキュプレドキシンまたは請求項1に記載のペプチドを薬学的に許容される担体中に含んでいる薬学的組成物。
【請求項１４】
少なくとも２つのキュプレドキシンまたはペプチドを含む、請求項13に記載の薬学的組成物。
【請求項１５】
前記薬学的組成物が静脈内投与のために製剤化される、請求項13に記載の薬学的組成物。
【請求項１６】
前記キュプレドキシンは緑膿菌（Pseudomonas aeruginosa），Alcaligenes faecalis, Achromobacter xylosoxidan, Bordetella bronchiseptica, Methylomonas sp., Neisseria meningitidis, Neisseria gonorrhea, Pseudomonas fluorescens, Pseudomonas chlororaphis, Xylella fastidiosaおよびVibrio parahaemolyticusからなる群から選択される生物体に由来する、請求項13に記載の薬学的組成物。
【請求項１７】
前記キュプレドキシンが緑膿菌に由来する、請求項15に記載の薬学的組成物。
【請求項１８】
請求項13に記載の薬学的組成物であって、前記キュプレドキシンが配列番号1、3～19からなる群から選択される薬学的組成物。
【請求項１９】
不適切な血管形成に関するコンディションに罹患している哺乳類の患者を治療するための方法であって、前記患者に治療上効果的な量の請求項13に記載の薬学的組成物を投与する

ことを備える方法。
【請求項２０】
前記患者がヒトである、請求項19に記載の方法。
【請求項２１】
前記患者が癌に罹患している、請求項19に記載の方法。
【請求項２２】
前記癌がメラノーマ，乳房癌，膵臓癌，グリア芽細胞腫，星細胞腫および肺癌から選択される、請求項21に記載の方法。
【請求項２３】
前記患者は黄斑変性症，糖尿病性網膜症，乾癬および関節リウマチからなる群から選択されるコンディションに罹患している、請求項19に記載の方法。
【請求項２４】
請求項19に記載の方法であって、前記薬学的組成物が静脈内注射，筋肉内注射，皮下注射，吸入，局所的投与，経皮性のパッチ，坐剤，硝子体注射および経口投与からなる群から選択される様式で投与される方法。
【請求項２５】
投与の様式が静脈内注射である、請求項24に記載の方法。
【請求項２６】
請求項21に記載の方法であって、前記薬学的組成物は少なくとも１つの他の抗癌薬と共投与される方法。
【請求項２７】
請求項24に記載の方法であって、前記薬学的組成物は別の抗癌薬とおよそ同時に投与される方法。
【請求項２８】
請求項19に記載の方法であって、前記薬学的組成物は、抗黄斑変性症薬，抗糖尿病性網膜症薬，抗乾癬薬および抗関節リウマチ薬からなる群から選択される少なくとも１つの薬剤と共投与される方法。
【請求項２９】
請求項13に記載の薬学的組成物をバイアル中に含んでいるキット。
【請求項３０】
前記キットが静脈内投与のために設計される、請求項29に記載のキット。
【請求項３１】
血管形成または不適切な血管形成に関するコンディションを研究するための方法であって、血管形成する能力がある哺乳類細胞をキュプレドキシンまたは請求項1に記載のペプチドと接触させることと；血管形成の程度を測定することとを備える方法。
【請求項３２】
前記細胞がヒト細胞である、請求項31に記載の方法。
【請求項３３】
前記細胞がHUVECsである、請求項30に記載の方法。
【請求項３４】
請求項1に記載のペプチドをコード化する発現ベクター。
【請求項３５】
配列番号２または配列番号２の短縮型からなる単離されたペプチドであって、前記短縮型は配列番号２のアミノ酸残基１～１８を含み、前記単離されたペプチドは哺乳類において血管形成を阻害できる単離されたペプチド。
【請求項３６】
配列番号２のアミノ酸残基１～１８からなる請求項３５に記載の単離されたペプチド。
【請求項３７】
請求項３５に記載の単離されたペプチドおよび薬学的に許容される担体を含む薬学的組成物。

【請求項３８】
請求項３７に記載の薬学的組成物であって、前記薬学的に許容される担体は静脈内投与に適切である薬学的組成物。
【請求項３９】
請求項３８に記載の組成物をバイアル中に含んでいるキット。
【請求項４０】
前記単離されたペプチドがインビトロでHUVEC細胞による毛細管形成を阻害する能力を有する、請求項３５に記載の単離されたペプチド。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】配列表
【補正方法】変更
【補正の内容】
【配列表】
2009502797000001.app